



「大学生インターンが大活躍！in JICA札幌」 ～大学連携の現場から～

今年度は大学生インターンを7月30日から2週間ぐらいずつ、4グループに分けて9月17日まで合計10名受け入れた。受け入れ大学は、早稲田大、立命館大、北大、北教大、北海学園大の5つであったが、専攻は、国際関係、経済、法学、工学、教育といった具合に多岐に亘った。受け入れた時期によって活動プログラムは異なるが、最初のグループは高校生国際協力実体験プログラムの裏方として、このイベントのために協力してくれた多くの大学生ボランティアと共に、第2グループは中南米・農業分野の青年研修を盛り上げ、第3グループはアジア、アフリカ、中南米の研修員がパフォーマンスを競う見聞広場で、第4グループは高校生インターンの国際理解教育にとそれぞれが大活躍してくれた。

多くの関係者から話を聞き、関心を持った課題について最終報告にまとめてもらったが、「NGO等とのリソースの共有と分担」、「国際協力による地域活性化」、「国際協力と語学力」、「フェアトレードで貧困をなくそう」、「自助努力促進のための民間投資」、「国際協力のために重要な教育」、等々たいへん興味深い考察が多かった。彼らの今後の活躍を期待したい。



大学生はムードメーカー！世界の見聞広場にて

(JICA札幌 市民参加協力課 石井潔)



研修の現場から～札幌市の現場と「であい」、世界へ～

さて、あなたはこんな札幌市内の現場にであったことがあるでしょうか？

- ① さっき、あなたが流したトイレの水を処理する施設
- ② その水を運ぶ下水道管
- ③ 処理された水が流れる場所

札幌市民でもなかなかであうことのできないこんな現場に、アルバニア、ブラジル、マラウイ、スリランカからやってきた5名の研修員が日々足を運び、学びを深めました。

「下水道維持管理」研修コースは、札幌市建設局が受け入れ先となり、9月17日から11月7日までの8週間にわたり実施されました。研修の最大目標は、日本の現場の



①真剣に札幌市建設局講師の手元を見つめる研修員

知見を活かして、自国の下水道事情を改善させることです。各国の抱える問題は様々ですから、研修員も講義・実習・実験・議論を通じて、様々な分野を学ぶこととなります。例えば10月21日には「排水処理施設」のコマにおいて、汚れた水をきれいにする方法の講義を受けたあとに、実際に実験でそのメカニズムを確認しました。そして技術だけでなくどのように札幌市が規制を用いて、きれいな水を保護し、違反した場合どのような罰則が科せられるのかも学びました(写真①)。

もちろん、現場との「であい」は研修内容だけにとどまりません。お昼休みには、おやつをみんなでつまんだり、卓球をしたりとまさにあらゆる角度から日本の現場にであった8週間でした(写真②)。

「であい」の成果は11月7日(金)に帰国後の活動計画である「アクションプラン」として発表されました。技術とともにさまざまな日本の文化が世界に広がっていくのを、楽しみに見守りたいと思います。

(JICA札幌 研修業務課 小島海)



②昼休みには卓球指導！

国際協力推進員(函館)着任のご挨拶

ジャンボ!!(こんにちわ) JICA函館デスクに着任しました津田千恵子です。ケニアから帰国して早4カ月の協力隊OGです。日本の最新技術に驚かされた心を函館が癒してくれます。来年、港街函館は開港150周年！はあ～るばる来たぜ函館へ～♪の気分で、遠方の方もお気軽にお越し下さい。よろしく願いいたします。

国際協力推進員(函館)津田千恵子



恐る恐るパチリ(ケニアパークにて)